

取扱いの趣旨

IRIは、インスリン分泌の評価に有用であり、糖尿病の病型診断、薬剤の変更あるいはコントロール不良例などに対する治療方針の再評価等に際して必要不可欠な検査であるため、糖尿病疑い等に対する算定は、原則として認められない。

支払基金が公表している取扱いの全文

【投薬】 《令和6年7月31日》

254 糖尿病疑い、耐糖能異常疑いに対するIRIの算定について

○ 取扱い

次の傷病名に対するD008「8」インスリン（IRI）の算定は、原則として認められない。

- (1) 糖尿病疑い
- (2) 耐糖能異常疑い

○ 取扱いを作成した根拠等

インスリン（IRI）は、インスリン分泌の評価に有用であるとともに、糖尿病（確定）の病型診断、薬剤の変更あるいはコントロール不良例などに対する治療方針の再評価等に際して必要不可欠な検査である。

一方、糖尿病状態が疑われるときの診断検査としては、通常、血糖値（空腹時、随時）とHbA1c値が有用である。

なお、糖尿病疑い又は耐糖能異常疑いが否定できない場合、75g経口糖負荷試験と同時に血中のインスリン又は血中C-ペプチドを併せて測定する耐糖能精密検査を用いる場合があるが、インスリン（IRI）検査のみを実施することは必要ではない。

以上のことから、糖尿病疑い、耐糖能異常疑いに対するD008「8」インスリン（IRI）の算定は、原則として認められないと判断した。

グラフの見方

- 1 棒グラフ（該当レセプトの審査結果）
インスリン（IRI）を算定している目視対象レセプト1万件当たり、条件（糖尿病疑い、耐糖能異常疑いに対する算定）に該当するレセプト件数
- 2 折れ線グラフ
インスリン（IRI）が査定・返戻となった割合

【棒グラフ凡例】 審査の結果

査定	返戻	: 取扱いどおり
請求どおり 職員等	請求どおり 審査委員	: 検証が必要

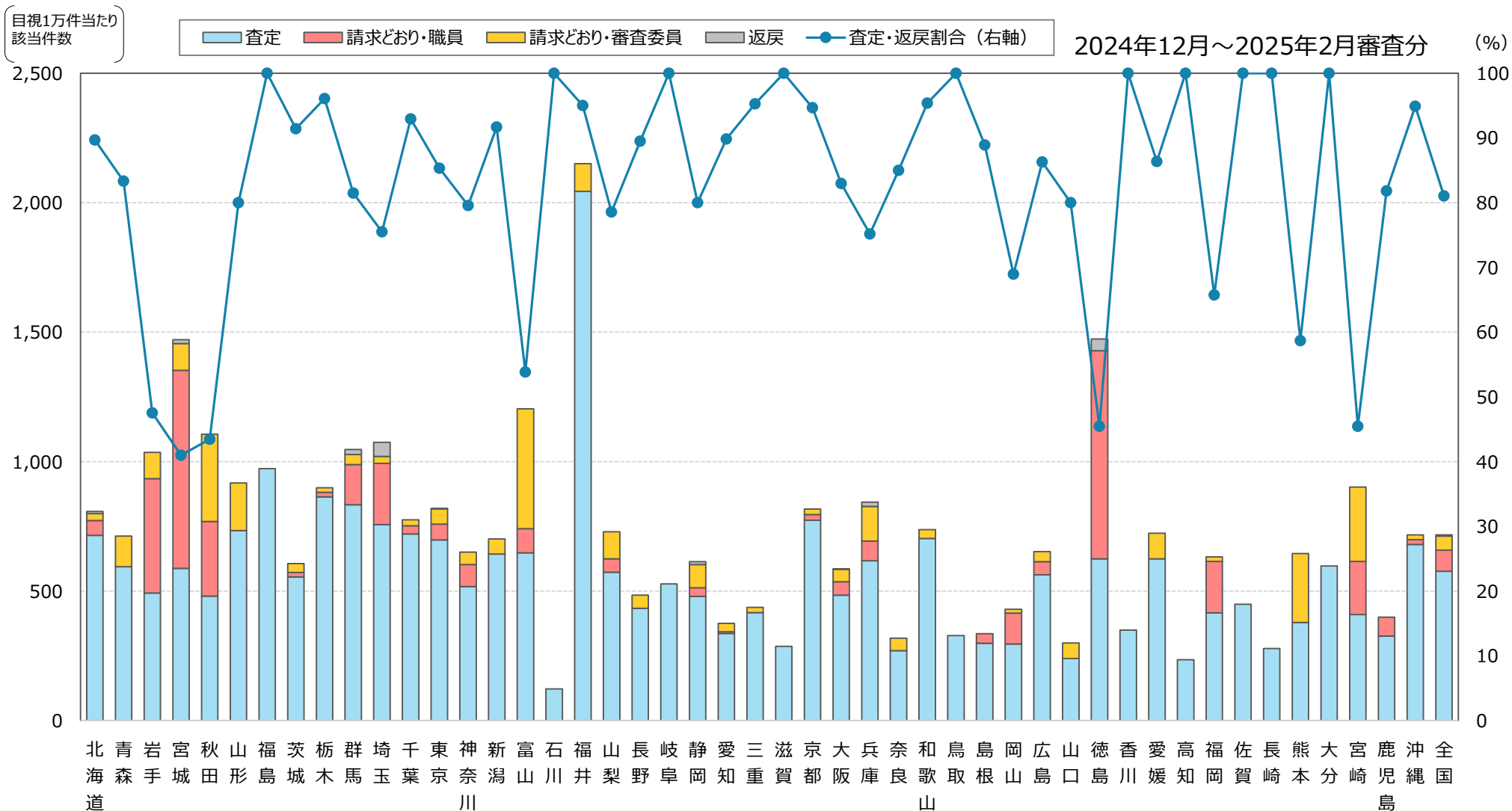
審査結果の概要

- 全国の査定・返戻割合 81.04%
- 検証対象都道府県 28

検証観点	都道府県※	備考
査定・返戻割合が低い	宮城、秋田、徳島、宮崎、岩手、富山、熊本、福岡、岡山、兵庫、埼玉、山梨、神奈川、山形、静岡、山口	査定・返戻割合の低い順
請求どおり・職員	徳島、宮城、岩手、秋田、埼玉、宮崎、福岡、群馬、岡山、富山、神奈川、兵庫、鹿児島、東京、北海道、山梨	対象1万件当たり件数の多い順
請求どおり・審査委員	富山、秋田、宮崎、熊本、山形、兵庫、青森、山梨、宮城、岩手、愛媛、静岡、山口、東京、長野、大阪	//

※検証対象都道府県が16を超えたため、16都道府県を限度に表記している

該当件数（全国）	【条件】	2,833件
取扱いに基づく審査	査定・返戻の計	2,296件
検証を必要とする審査	請求どおり	537件



該当件数	184	36	61	100	23	10	39	35	51	54	159	99	600	137	12	13	2	20	14	19	35	55	59	21	6	75	305	145	20	43	4	9	29	51	5	33	10	22	2	73	4	9	46	21	22	22	39	2,833
請求どおり件数	19	6	32	59	13	2	0	3	2	10	39	7	88	28	1	6	0	1	3	2	0	11	6	1	0	4	52	36	3	2	0	1	9	7	1	18	0	3	0	25	0	0	19	0	12	4	2	537

【該当件数】糖尿病疑い、耐糖能異常疑いに対してインスリン（IRI）を算定しているレセプト件数